十二日 夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵税 金十五錢
□一部 代金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□特殊欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓増
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人 森合英

閼伽井嵐

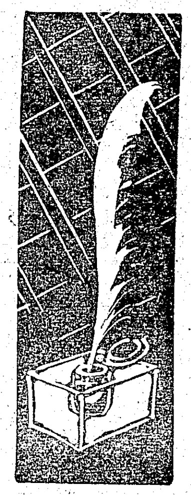
醫師の注意

武藏山人

天然痘の發源系統は滿洲移入と判明したやうであるが、病菌を傳播された直接保菌者は若松病院入院患者、鈴木たけさんと斷定されたやうである。同人の死因に對し、若松醫師は「村上醫師の立會檢診を求め紫斑病〃と斷定したもので絶對に天然痘にあらず」と辨明してゐたやうであつた。然し事實は證明する。隣病室の勿來町小島長吉さんが眞症と決定收容されるに至つて、たけさんの死因も又紫斑病にあらずして〃天然痘〃であつたことが立證されたことに成つた。

天然痘の診察が如何に困難であるかは、吾々素人が批評すべき限りにあらず、醫師間でも定評あり、類似病に惑はされるのは決して無理からぬことであつて、若松醫師の責任を追求せんとするものでないが、村上醫師の立會を求めた際或る程度の疑ひを持つたことは事實であらう。

その際今一歩進め、縣當局の檢診を求めてゐたなら、系統的調査などから死亡前に病源を發見傳播を防ぐことが出來たのではあるまいか？過ぎたるは及ばざるが如し今更責めても致し方ないが、醫師の良心に訴へ今後斯る失態を再び繰り返さぬやう全醫師の注意を喚起する。



磐城の郷土研究回顧

岩手縣 山口彌一郎

一、割據的研究の開放

今迄の郷土研究は大體舊藩時代に懷古味を持つた人、幕末百年このかた江戸時代に興味を持つた人が珍らしい文章等を引出してやつてゐたのであるとは、昭和十二年九月親しく柳田國男氏が磐城に立ち寄られて我々を教へられた言葉の發頭にあつた。外部と交渉の無い所謂割據でやつてゐたのでは多少の興味はあるであらうが、日本國民としての全國的意味が無いと言はれるのである。

郷土研究乃至郷土教育を概念的に鼓吹する熱情には誰れも異存を言ふ者もなく、又周圍に散在する資料に容易に手を觸れてみる氣にはなるが、價値ある新しい資料を探し出して整理體系立てる事は事實容易な事ではない。磐城の郷土研究も諸先輩に依り多少はなされて來たが既に發表されてゐるものの翻刻以外に附加されたものは多くはなかつた。そして此等の資料を他地方のものと比較して、磐城の日本的位置を探り出す仕事は一層なされる事が少なかつた。

或る磐城の座談會で正月十五日まで死人の家へ出入せず葬儀も出せない風習の矯正に就いて話題が賑はつた時「それはいくら矯正を叫んでも實施出來まいそれ以前に一仕事が殘されてゐる。それは此の風習の日本に於ける分布を調査する事である」と語つたのを覺えてゐる。そして矯正を壇上で叫ぶ者はあつても、地味な此の分布を探り出さうとする者はなかつたのである。

磐城の郷土研究資料を私せず、惜氣も無く學界に提供して中央の學者に觸れしめ、磐城の日本に於ける郷土的風格に見通しをつけ得るまでにして與れた功績の第一は石城郡草野村高木誠一氏に負はせねばならぬ。私が高木氏を知つたのは餘り古くはなかつたが、一度知つてからは一も二も氏より教示を仰いだ。草野驛より氏の部落まで約一里と言ふが此の道を幾度往復したらうか雨のぬかるみの道も今まのあたり見える樣であるし夜道を提灯たよりにとぼ〳〵平まで歩き通した事等もあつた。今磐城を去つて半歳餘稍々落着いて振り返つてみると、せつせと高木氏宅に通つた最近の數年こそ我々の磐城の眞の意味の郷土研究であり多年の割據的研究の開放の足どりでもあつた樣に思へる。

私の磐城に於ける滿十五年の生活は内外共に多難であつたとも言ひ得る。むしろ研究にでも身を支へて置かなかつたら持ち耐へられなかつたかも知れぬ。而かも磐城を去る時磐城に滿腔の感謝を捧げる氣持になつて、晴々しく嬉しかつたのは、高木氏の多年の地味な苦勞の多かつた郷土研究に學び、共力して幾分でも磐城の研究に見通しを附け得るまでにした事であつた。今私は東北の旅の整理を遂げたい念願で磐城を去つた。去る時磐城の研究も一先づ整理すべきであつたらう。然し果てない研究を我々の手によつて仕上げて終ふのも恐ろしい。此の附近で此處までは研究がとどいてゐると言ふ樣な書き振りで結んで置く方が後繼者の方々に對する禮儀でもあり、二度とこれまでの研究の荊棘の道を踏ませない爲めの心やりかとも思つたのである。

鐘の音

光窓

巷の騒音の中から
靜かに深く
音を搖りつゝ
鐘の音が傳はつて來る
今日一日の生業を終へて
安らけき家路を辿る
何がなしに心たのしく
歩調も輕やかだ
今日ひとひ
事務に鎖された私の胸を
明るく蘇らせてくれる
この神秘な鐘の音は
安であり空想であり
生活への潤ひでさへある
今日一日の無事を感謝しつゝ
家路をたどる

異説赤穗浪士 (171)

桃川若燕

畫 城本喬

多田權兵衞

當惑してゐるところへ、大石は石段を下りて來た。

『御挨拶を申し上げる手前は赤穗播の大石内藏之助と申す者でござる。只今寺男から承はつたが、主人の墓を日々御掃除下さるとの事誠に御奇特に存ずる……イヤイヤさう御叮寧では恐れ入る。どうぞお手を上げられますやう……』

と云つたが數右衞門は叮寧に頭を下げてゐるのではない。大石に頭を見られるのが辛いから頭を下げてゐるのだ。

『サ、お手をお上げ下さい』

と再三言はれて思はず顏を上げる數右衞門を見て、

『オヽお身は　破氏……』

と云はうとしたがそれでは數右衞門の苦心が水の泡となると、早くも察した大石は、

『これは始めてお遇ひ申す』

『左樣にございます、初めてお目通り致します』

『權兵衞殿と仰せられるか』

「左樣……』

『姓は……』

『多田と申します』

『御出生は……』

『藩州でございます』

『オヽ御同國でござつたか、藩州は何れで……』

『あ……』

と赤穗が口に出さうになつた、

『あ、明石でござります』

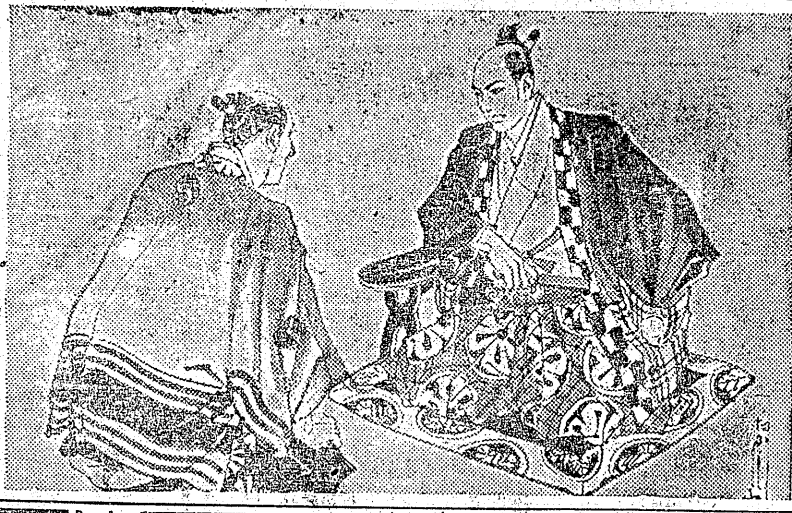
『左樣か。明石と申さば松平左兵衞殿の御城下、御見受け申すと御浪士のやうでござるが定めし、明石侯御藩でござらう』

『如何にも松平藩中の者でござるが、仔細あつて退身致しました』

『左樣か、多田氏、お差支なくば一寸手前小屋へお出でを願ひたい築地鐵砲洲淺野内匠頭上屋敷内大石内藏之助小屋とお尋ねあれば直ぐに知れる。手前も近日赤穗へ歸國致す筈でござれば、その前に粗茶を一服差し上げたい御都合に依つて明日お越しを願へば結構でござるが、若し御迷惑なれば手前から貴公のお宅へお尋ねを致しても苦しうござらぬ』

『これは恐れ入りました。然らばお言葉に從ひ、明日推參仕るでござりませう』

『早速御承知忝けないそれでは是非お出でを願ふ、お待ち申す……』



間もなく大石は鐵砲洲へ立ち歸る、後に殘つた數右衞門正種は大石の後姿を見送つて嬉し涙にむせんでゐた。

さて大石は鐵砲洲のお屋敷へ歸ると、折柄出府せられた内匠頭殿の御前体へ出た

『今日はお暇乞ひの爲め御三代樣御墓參に參りましてございます』

『それは大儀であつた』

『本日は奇なる人物に出會ひましてござります』

『奇なる人物とは、何者であるか』

『藩州明石の浪人多田權兵衞と申す者でございます。承はれば本年の春頃から御三代の御墓所を掃除致し居ります由、如何にも奇特と存じ、明日手前小屋へ參るやう約束致して參りました。罷り越せば御前へ召し連れまするやう宜敷しく御挨拶遊ばすやう願はしう存じます』

『ウム、それは不思議なものである。參つたら召し連れて參れ。何か遺はさう』

『それに就きまして聊か申し上げたき儀がございます』

『何んぢや……』

『その多田と申します浪人は昨年お手討ちになりました不破數右衞門に誠に良く似て居ります』

『ウーム』

と云つた儘内匠頭殿は暫く内藏之助の面を見詰めてゐたが、何思つたか、

『コレ立て一同退るや……』

と近臣を遠ざけた。

田毎のみつ豆
田町 電六三二

◉中古純綿◉純毛掘出し物地縞◉正紺絣◉紺織色、紋平◉メリヤス◉チヤンバーヅボン◉オーバー◉布團類◉作業服◉洋服類
產業戰士必需品豊富荷揃
平市二丁目角 伊關呉服店 電話三三三番

立食 天婦羅 始めました
おでん もつ燒 一平
小名濱町

✿✿お花も近く散策日和となりました
おみ足のお序でにぜヒ公園の「やなわ」へお立寄下さいませ
御休みの御用意を整へました
平公園池の端 電話二二六番

女車掌募集
未經驗者を希む
【經驗者も可。本人御來談乞ふ】
三井自動車商會
平市二丁目 電話685番

高級林檎酒 ミユキ
釀造元 青森縣弘前市 株式會社 御幸商會
福島茨城販賣元 石井德重商店
久ノ濱町 電話三二番

國民擧つて防火塗裝を！
回危險に曝露する木造家屋
回手輕るに出來る防火家屋
回コロイド防火塗料の特長
カタログ進呈
專賣特許 太陽無機コロイド販賣店
大量使用の御注文並團体的御申込へは實驗の御希望に應じます
山田文一商店
平市仲町通り 電話二六二番地

世界的治療機
超短波 時代來る
四百四病の中『ガン』以外は必ず治ると東京帝大眞鍋嘉一郎博士の證明するアコマ超短波治療器にて一日も早く如何なる難病も實驗治療して下さい
お試し下さい十日間程 無料實驗 朝八時より午後五時迄
福島縣代理店 川崎松之介商店
平市新川町一四

フタバ磁氣療院
平市中町（公會堂通）フタバ印刷所内
電話一九三番

おちの良い マルミ粉石鹸

割烹 尼子亭 別府（華）温泉

快適な筆觸
ウエル萬年筆 金貳圓より數十種
佐々木のガラスペン 一本金拾錢より
ガラスペン中の第一級品です、一度の御使用が永久の御愛用となる事請合
代理店 文 魁文堂
平市學校坂下 電話[illegible]

工員募集
一、求人者 福島縣石城郡小名濱町 日本水素工業株式會社小名濱工場
二、應募資格及人員 年令十五才以上の男子 一〇〇名
右優遇採用す
三、寄宿舍其ノ他福利施設完備
四、申込方法 履歴書一通提出ノコト
五、申込場所 平市田町 平國民職業指導所

大衆向きの小口保險二百圓より大口契約も
板谷生命保險株式會社
小名濱代理店 比佐政種
好條件で外交員募る

氣持の良い衞生施設で
魚がし 食堂開店
小名濱町橋本 山マス食堂部 電話七五番

磁器治療開業
マグネタイザー適應症
◉高血壓◉胃腸病◉蓄膿症◉痔疾患◉中風病◉脚氣◉泌尿病◉心臟病◉神經痛
◉生殖器諸症◉カリエス◉呼吸器病◉婦人病◉小兒虚弱體◉ロイマチス◉ゼンソク◉其他諸症治療
治療所 平市田町シンガーミシン會社二階 平磁惠院物理治療

タンス・鏡臺
御婚禮調度品を取揃へました
是非 和 和久井屋へ御越し下さい
平市一丁目（電話四〇五番）

内科、外科、花柳病科
小兒科、耳鼻咽喉科
レントゲン科
高久病院
院長 醫學士 高久忠
平市田町 電話[illegible]一三番

良品選んで廉價販賣
パイロット萬年筆
¥2.00以上
御入學に。御祝に……
進物ケース呈上
平市公園前 角忠 佐々木商店 電二三三番

電話高價に買ひたし
（姓名在社）

砂利小賣 販賣
◉長橋町三十番地へ貯藏所を設けました。容れ物御持參下されば小量でもお賣り致します。
◉五合以上の御注文は特に運搬も致します
神谷砂利店
平市白銀町 電話六六五番

三月十二日より
電話二九六番（フクロク）
東邦タイプライター代理店
東邦タイピスト養成所
平市田町銀座街
藤森（藤森事務用器商會）電話二九六番 振替仙臺五一〇番

櫻花綻ぶ
照明、賣店、公園の準備も成り
あすの日曜が見頃

〃無軌道天候〃を他所に平市松ヶ岡公園、新川堤の櫻花は大きく膨れてパット三分咲き『家に入つて居られない』こんどこそ〃春〃だと花を慕つてわんさと家族部隊が押かける市役所でも『縣社のお祭り頃までは……』と公園の美化作業を豫定してゐた處、早咲きに狼狽人夫を動員瓢簞池周圍の垣つくりや投光電氣の布設に大童である

公園に一、二ヶ所位の賣店があつてもいゝ筈なのに……賣店申込のない市では例の親心で心配してゐた處、やうやく南町高橋ハツさん、中本スイさんの申込みがあり直ぐに許可した

◇

一方照明電氣は投光器十五、裸電氣二百個の豫定で明十三日から一齊に點燈する、又公衆電話は十四日から今月一ぱい例年通り臨時架設する『三分咲き』の花信を耳に近郷各地から明日の日曜日は相當人出がある模樣でこれを輸送する平驛では終日常磐線、磐越線上下各五輛から二輛の臨時增結をして輸送緩和に乘出す、平驛のはなし『天然痘が發生してゐる折柄、あまり激しい出入は喜ばしくありませんよ……』鐵道側の雜踏緩和を望む悲鳴のやうにも聞える

◇

賣店に對するご法度は午後五時以前は店內の酒宴絶對に許さない・但し賣店で酒の販賣は認められる、たゞ値段は從來園內までの運搬費加算を認められたが今年は『市內の價格より一文でも高く賣つては相成らぬ』と云ふお達しになつてゐる

花柳界
公休日變更

平藝妓、料理屋組合及西洋料理屋さん、飲食店も花見の諸催しに備へ十六日の公休を二十五日に延期する

壯年團結成準備
廿三日公會堂日本間に開く
行政區單位に編成

青年團の改組に伴ひ除外されることになつた爲、二十一才以上の青年と四十才以下の壯年を以て全縣下に壯年團を編成し、翼贊會の外廓團体として地方指導の推進たらしむべく翼贊會縣支部では縣內を四班に分けこれが指導者協議會を開くことになつた

石城郡及平市の協議會は二十三日午前九時から平市公會堂日本間に開くことに決定

協議會の出席者は一町村七名を限度とし支部長、理事、推進員の內から選定することになるらしい

尙新編成の壯年團は元の青年團のやうに行政區を單位に編成部長の下に職域別の班長を置くなど組織に重點を置いてゐるやうである

在米異狀なし
縣內產で補充案確立
但し節米肝要

毎年櫻花期の頃から在米薄となる石城地方本年の現在高は、配給統制で地元管理米を以て充當してゐるのと郡外からの移入がないため昨年より幾分減少してゐる樣だが、十一萬石弱の程度と想算され例年に比して大した乏しさはないが所記の在米を郡市合せて一ヶ月二万五千餘石づゝを要するものと見れば向ふ四ヶ月分、即ち七月末には食ひ盡されることになる、然し當局では『縣內米で充分だ』と云ふ大皷判を押してゐるので空腹を抱へて間誤つく樣なことは斷じてないと見られてゐる

尙ほ前記一ヶ月の所要米は飯米をはじめ菓子、餅類、酒、味噌、醬油、酢、麴、製粉等々一切を計算に入れたものなので出來るだけの節米と保有米の供出を一段と强化することを怠る樣なことがあつてはならぬと云はれ一般に節米一層强調することになつた

商店公休日問題
十四日に協議會開く
二日制採用か

十四日午後一時から市議事堂に警察署、市役所、商工會關係者が參集『商店法に依る休日改善打合會』を開く

同打合會は最近市內の商店側で店員の休位向上並に一時に多く商品を賣上げると一定期間の配給日まで手ぶらになるから二十日の公休以外に定休を定めて貰ひたい要望があり、また多く店員を使用してゐる商店では十名乃至五名位が交替に休日を設定する交替制の實施を望んでゐるのでこれを俎上に協議する

尙ほ當日は更に公休日に於ける店員の指導についても打合する筈である

好間炭礦
山神祭
當日は終日賑ふ

好間村古河炭礦の山神祭は十五日同礦の大山祇神社で擧行、當日は全山休業し餘興の芝居や武道大會などがあり終日山祭りで賑ふ

隣保扶助實践
協力一致病家介抱
善行を表彰か

市內四丁目第九群隣組の美擧、同組は山田信次氏が組長で組內の十三戸に他の範とする活動が尠くないが中にも感心されるものは群の小林某(五四)が中風で長男(二四)が肋膜をわづらふ永い病床を看護に盡してゐた妻まち(五三)さんまでが去る三月初めより臥床の身となり遂に胃癌となつて全家三人頭を列べるところとなつたものに同情し山田氏自ら其の病婦を背負ひ八幡小路の保健所や南町松村病院に組內力を合せて醫療を施し其の都度十三戸の隣組から五十錢乃至一圓づゝ數回に亘つて醵金しつゝ右の病家を助けてゐたがきちさんは藥石効なく數日前遂に死亡したので殘る病者を勞はりながら葬儀まで營んで呉れてゐるので勿論方面委員からの助勢もあるが近頃にない美擧として市でも表彰することになる模樣である

國民校長會
今年事業打合せ

今十二日湯本小學校に第二區國民學校長會並に教務主任會を開催し國民學校として今年度の方部事業計畫を協議する

約三千名參集し
あす平產報大會
會議終了後日の丸行進

福島縣產業報國會平支部大會は縣から勞政課長、產業報國會支部長が臨席、十三日午前九時半から平市公會堂に開催する、當日は全會員約三千名出席何れも日の丸辨當を持參

先づ宮城遙拜、戰歿將兵に對し感謝並に出征將兵の武運長久祈願、開會を宣し、國歌合唱、產報支部長の挨拶、縣產報會長訓示、大日本產報會長祝詞、綱領朗讀宣誓、優良會員表彰來賓祝詞、受賞者總代の答辭、產報派遣講師の講演、萬歲三唱

大會終了後一同公會堂前に整列、勞政課長、縣產報會長の檢閱を受け終つて次の順に日の丸市內行進をする

公會堂前出發、大町新川町、五丁目、四丁目、三丁目常陽銀行角より市役所通りを經て櫻花咲く松ヶ岡公園忠魂前に集合忠魂碑を參拜、同所で解散する

優良會員
表彰氏名

△片倉工場、市川カネ、大竹ハツエ、大谷カノ子、我妻ケサイ、遠藤フヨ、柴田シコ、星野レイ子、日下チヨシ、照沼肇鈴木タマ子

△佐藤製材、五十嵐喜一、金澤キセ、横須賀ミノ

△磐城練瓦、柏野サヨ、杉野德藏、長谷川カネ、柏寅之助、田久忠明、馬場武雄

△田邊製作、穗積榮左衛門、淺沼武夫、田邊馨、小野汎、君山春雄

△芹澤製作、安孫子ミサオ、大平政一

△平自動車商工、上遠野幸昇、佐藤長壽

△產業報國會、大友運藏、野川三郎

△色川木材、石田儀一郎

△河田鐵工、川島秀雄・永沼光藏、鈴木清弘、鈴木茂、石川力夫

△平電力、中村敬一酒井龍雄、片寄篤一竹山松三郎、後藤光彌、木田貞義、大谷芳雄、草野三千雄、關根保雄

△平製氷、馬目安一原已之吉、佐川儀八熊坂忠七、稚名喜代太郎、馬目勝、鈴木瀧次郎、大越彌未、鈴木儀春

△山田麻袋、武田安右衛門、水野パル、遠藤チヨ、鈴木ヤスヨ、猪狩ツヨ、佐治重雄

△佐藤木工、小松利意

△吉田鐵工、小松秀彌

△丸ほん家具、安積己好、酒井信次、樋田朝男、鈴木清人、久永勝次、池津乾、吉田信雄

△鈴木鐵工、江尻忠善

△品川白煉瓦、野木勇雄、遠藤忠八・矢吹傳、木童誠、木田忠一郎、原田三郎、佐藤ヨシ、鈴木幸吉服部正彦、丹野福彌渡邊次郎、廣瀨庄平大繩末吉

△吉健鐵工、矢內茂雄、武田藤夫

▲齋藤製材、小野幸吉

△倉兼鐵工、村上久吾

△酒井製材、酒井文太郎

△中川製材、中川専之助、中川ヤス、齋藤トヨ

△橋本屋木工、伊藤重三郎、野川森一

△矢野製材、柏原仲之

△方波見製材、高萩忠衛

△鈴木要製材、古館助

△增尾木工、大和田源七、△管野製材士屋三郎

△四倉製材、志賀直一

△金田製材、江尻正光、渡邊政一

△佐藤鐵工、秋葉道雄、上材勇、鈴木章平、高田康夫、酒井一

△平鐵工產報、根本保男、鈴木正、永山保、須田文武左右

△工藤鑄造、今野光箱崎元、馬場豐記

△武藤鐵工、西原雄藏、浦邊松之助、藤社長治、木下藤永、佐藤喜平造

おでん
たつた揚
やきとり
平市一丁目
一平

献金

小名濱町松の中小松スミ子さんは十日町役場を訪れ銃後奉公會へ金拾五圓を寄附した

忠君・勤勉の象徴
大楠公・尊德翁の銅像建立
小名濱校へ篤志寄附

小名濱町第一、二兩校には嚢に野崎貞行氏の寄附により二宮尊德翁の銅像が、この程到着し近く兩大玄關脇に安置する事になつたが、今度は特志家として町民の尊敬を一身に集めてゐる材木商大平勳氏が大楠公の銅像を寄附する事になり學校當局を彌が上にも喜ばしてゐるが、これに對し第一校長西山氏は、これで學校も理想的になつたと左の談話を洩した

吾國の勤儉力行の代表は二宮翁であり、忠君愛國の代表は大楠公である、この立派な代表的銅像を表玄關の左右に安置する事は小國民の教育上またとない精神的の教材となり縣下各校にも誇らしき限りである。御寄贈下さる野崎、大平兩氏に對しては教職員一同心から感謝の意を表してゐる

警察の民衆化
犯罪豫防に常會出席
担任者決定

平警察署では經濟犯罪の豫防は民衆と融和することが第一であるとの建前から今度經濟警察並に署內勤務巡査部長級を動員、次の豫定で常會、區內會、隣組などに出席、民衆の聲を聞き警察當局の希望を述べ忌憚ない意見を交換、警察當局と民衆とを親ませて一擧に犯罪を撲滅しようと計畫この成果を期待されてゐる

一區佐藤(經)部長、二區花見部長、三區本內部長、四區菊地部長、五區柴田部長六區中澤警部補、七區坂本部長、八區瀨戸警部補、九區齋藤警部補、十區阿部視察係、十一區丹治部長、十二區土屋警部補十三區佐藤(監)部長十四區渡邊視察、十五區齊藤內勤、十六區星視察、十七區渡部長、十八區兒玉內勤、十九區木村部長二十區安齋部長、二十一區菊地視察、二十二區白木視察、二十三區關部長、二十四區岩下警部補、二十五區永岡部長、二十六區伊藤部長、二十七區梅林寺部長、二十八區瀧木警部、二十九區、土屋警部補、三十區佐藤(經)部長、三十一區關部長、三十二區、三十三區鐵道官舍瀨戸警部補

痘禍終熄か
疑似者は一掃さる
防疫陣尙强化

地方民を脅やかした天然痘も眞症五名で喰ひ止められる模樣で疑問視されてゐた夏井村木田茂(二五)同人の病室に附添つてゐた同村根本こと(三〇)草野村戸田とり(四三)の三名は何れも保菌の疑ひを解かれた

然し病菌の潛伏期が十日乃至十四日と云はれ、患者と接觸した者の數が非常に多いので傳播を防ぐため種痘を强制する一方今後の發生に萬全を期し、平署は防疫陣を强化警戒を嚴にしてゐる

野菜・果實類
最高公定決る

野菜、果ものに新しい小賣協定最高値段が決りました……平果菜商業組合では新もの野菜果實の出廻りを前に蔬菜果實小賣協定最高價格を決定した、今度の最高價格は四月現在より九月三十日まで實施し從來の價格と較べ値上つてゐるもの僅かにレンコン、とろゝいも類である(單位百匁)

【蔬菜】△馬鈴薯(六月まで)四錢△サツマ紅赤種、五錢、同紅赤以外四、五錢△玉葱(四、五月)八錢同(六月より)六錢△胡瓜(六月まで)一五錢)△南瓜(六月まで)一五錢△大根(莖五寸)四錢△トマト(六月まで)二〇錢△人參(五月まで)五錢△牛蒡(五月まで)六錢△里芋(五月まで)六錢△玉菜(五月まで)四、五錢△ホーレン草六錢△漬菜類、三錢△油菜、三錢△レンコン、一五錢△体菜、三錢△葉生姜、一五錢△根同二五錢△根水葉、七錢△切水葉、四十錢△結球白菜、三錢△山芋、二五錢△大和薯二〇錢△平薯、一五錢△キリイモ、一三錢△カブ、五錢△孟宗筍、一五錢△破竹、一五錢△眞竹一〇錢△茄子(六月まで)一〇錢△ウド二〇錢△莢豌豆(五月まで)二〇錢△茶豆(五月まで)二十錢△ニラ(五月まで)二十錢△フキ、一五錢△京菜、三錢△葉玉葱五錢

【果實】△リンゴ(リチヤード、印度、デリシヤス、スターキング)四十錢(その他七月まで二五錢)△梨(ラフランス)二〇錢△梨(二十世紀、菊水八雲)一七錢、同(長十郎その他)一七錢△ブドウ(甲洲、デラ)二五錢△同(その他)二〇錢△同溫室もの二〇〇錢△桃(水密、白桃)三〇錢△同その他二五錢△溫州ミカン、二五錢△ボンカン、四〇錢△ネーブル、四〇錢△バナナ、一七錢△栗二〇錢△メロン(六月まで)一五〇錢△柿(富有、次郎を除く)一〇錢△〇瓜一〇錢△ビワ、五〇錢△櫻桃、四〇錢△梅六錢△イチゴ、四〇錢△レモン(一ケ)二五錢△無花果(同)三錢△同ドーフイン種)五錢△西瓜(六月まで(一貫匁)一圓六十錢

猪瀨大佐
磐中で講演

郷土出身の海軍大佐猪瀨乙彥氏は十七日の子鍬倉神社祭禮に來平、當日午前十時から母校磐中講堂で一般生徒に講演放課後は同校の陸海軍志望者のみを集めて重ねて講演激勵することになつてゐる

擴築進む
授產場
先づ十一名增員

社會事業助成會の平授產場は工費一萬二千圓を投じ增築を急いでゐるが、增設するミシンは順次入荷しつゝあり遠からず四十台增して就職殺到に備へることになり、差當り十一台增設して遺家族の希望者十一名入場させた

增築家屋は今月一ぱいで竣功するので來月からミシンを順次增設入場人員も五十名位增員する豫定である

木炭組合
今年度事業指示

濱三郡木炭同業組合では今十二日午前十時から平市同組合事務所に於て製炭指導員と集荷係員二十餘名を會し早川組合長から指示の後十六年度の事業計畫につき協議打合せをした

花見に備へ
バスの時刻延長

野崎自動車部では平市公園の花見と縣社祭例で近郷からの人出に備へ十五日から二十日まで夜八時半までバスの運轉を延長することになつた

平―湯本間
平―宮間
平―赤井間

赤沼青年が
會館建築

草野村字赤沼青年分團では紀元二千六百一年記念事業として同字部落地內に工費五千余圓で四十坪の青年會館を新築することになり十一日起工した

竣工は九月頃の豫定で五百人を收容する相當な建物である

賃金統制令
田邊鐵工場違反

平市白銀町田邊鐵工場主田邊忠三(五三)は昨年六月頃から本年二月まで同工場從業員二百餘名に對し增場金の名儀で平均一人三圓から二圓の値上げをしたこと發覺、賃金統制令に觸れ平署の取調べを受けた

保護者會
磐中の打合せ

磐中保護者會總會は今十二日午後一時に同校講堂に於て開催された出席者四百名、先般評議員會で決定された左記の案件を協議決定した

一、會費增額の件　現在の參拾錢を五拾錢に增額、この中から學級增加臨時設備費金一千圓を捻出する

一、教練科の資材の完備をはかるため臨時に生徒より金を取つてその充實をはかる

一、役員の改選

愛婦號
平各分區寄附金

平市愛婦分會の軍用機愛婦號寄附金は既報の如く三千六百二十二圓に達したので發送の手續きをとつたが各分區別募集額は次の如し

△第一分區、二百七圓△第二、九十九圓△第三、八十八圓、△第四、八十六圓△第五、四十圓△第六四百八十圓△第七、百九十七圓△第八、八十圓△第九、二百十八圓△第十、七十圓△第十一、五十圓△第十二、九十五圓△第十三、百四十九圓△第十四、三十四圓、△第十五、二百七圓△第十六、百廿二圓△第十七、六十三圓△第十八、二百四十五圓△第十九、三十二圓△第廿、七百廿二圓△同廿一、六十二圓△同廿二、四十七圓△△同廿三區、八十二圓△同廿四區、十一圓△同廿五區、卅一圓△同廿六、區五十七圓△同廿七、區十七圓△同廿八區十七圓

四倉大敷網
準備進む

四倉町鈴木幸次郎氏經營の大敷網は八分通り準備進行五月上旬頃には投網出來る豫定で黃金の鯛も遠からずと期待されてゐる

大般若轉讀
磐崎村の法海寺

磐崎村法海寺では明十三日(舊十七日)は同寺院境內に先年新築落成した觀音樣の縁日にあたるので、十二時から出征將士の武運長久祈願のため大般若經の轉讀をする

鰹漁協議
餌料獲得が主要

來る十六日午後一時より縣水產試驗場に鰹漁業につき業者の協議會を開き

一、餌料獲得に關する件
一、漁況報告に關する件
一、漁業用資材配給に關する件その他出漁に關し必要な件を附議する

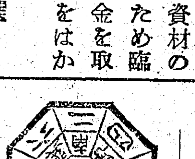
名取祝費寄附

平市田町酒井酒志己さんは三曲演奏會の名取祝費を節約十二日平市銃後奉公會へ十圓を寄附した

四倉農會
あす總會開く

四倉町農會總代會は十二日午後三時より開き左の件を附議する

一、昭和十四年度本會經費決算の件
二、昭和十六年度本會經費豫算の件
三、本會々則一部變更の件



日曜
辛卯
先勝
閉
昴宿

舊三月十七日
新四月十三日

▲一白　援助多く萬事に便宜あれど油斷は散財あり
▲二黑　運氣優勢にして諸事通達し收益多大なる日
▲三碧　手を延ばし過ぎて足元の疎かとなり易き日
▲四綠　希望計畫を起すは破滅の基を作る退守安全
▲五黃　不安を押し除けて直進するが成功するの本
▲六白　思ひ過ごしは物事を躊躇せしむ氣安く進め
▲七赤　午前は運氣至て善けれど午後は手控すべし
▲八白　種を蒔くには善き折柄なり成果疑ひなき日
▲九紫　家內に不滿ありとて我意を以て專斷するな

酒井氏寄附

平市一丁目元助役酒井寅之輔さんは故サイさん供養のため左の寄附があつた

△國民校基金、百圓
△國婦平支部三十圓

入營費節約
銃後寄附
吉村安治郎さん

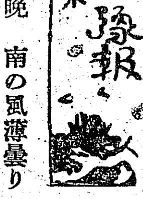
平市研町市議吉村安治郎氏は長男義一氏の入營費を節約金五十圓を十一日市銃後奉公會へ寄附した

平市慶弔錄

【婚姻】茨城縣多賀郡平潟町五百二十六番地根本慶次郎さんと平市四丁目十一番地小齊慶子(二六)さん

【出生】

【死亡】平市田町十五番地杉田靜子(三三)

天氣豫報


今晩　南の風薄曇り
明日　南の風初は晴れますがだんだん曇ります

（十三日）

滿潮　前四、三五　後五、四三
干潮　前二、一五　後二、三五

國基の五大製品
國民服　甲號　乙號
ケンモーサージ
本絹中衣　甲號　乙號
本絹レインコート　國民服用　外套規格
本絹レインコート　A號　B號
國民服と儀禮章
（カタログ生地見本進呈）
技術の優秀。親切な仕立
大量注文も御引受致します
コツキー製品特約店
大崎屋洋服店
平銀座　電九六番